

韓国環境部プレスリリース 2020年1月22日付

京畿道の野生いのしし弊死体からASFウイルス検出 (野生いのしし89-95例目)

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1211215&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は京畿道(キョンギド)坡州市(パジュシ)津東面(チンドンミョン)で発見された野生いのしし死体7個体でASFウイルスが検出されたと1月22日明らかにした。

7個体は全て農業経営者によって発見され、発見された地点は民間制限線内であり、2次フェンス内であった。坡州市(パジュシ)はASF標準行動指針により試料を採取して現場消毒と共に死体を処理した。

国立環境科学院は1月22日、野生いのししの死体からASFウイルスを検出したことを関係機関に通知した。これで坡州市(パジュシ)では38件の野生いのししASF陽性事例となり、全国的には95件になった。

国立環境科学院生物安全研究チーム長は"今回の死体は全2次フェンスの中で発見された。軍と協力して死体捜索を強化する予定だ"と話した。

以上